

機関番号：82512

研究種目：若手研究 B

研究期間：平成20年度 ～ 平成22年度

課題番号：20710195

研究課題名（和文） 医療労働者の国際的移動とその社会経済的影響に関する実証研究

研究課題名（英文） International Migration of Nurses and its Impact on the Health System of the Sending Countries - Case Studies of the Philippines, South Africa, Ghana and Zimbabwe

研究代表者 佐藤千鶴子（日本貿易振興機構アジア経済研究所・研究員）

研究者番号：40425012

研究成果の概要（和文）：

1990年代末から2000年代半ばにかけて、「南」の国々から先進国への看護師の国際移動が急増した。主たる目的地の一つは、国民保健サービスの拡充のために外国人看護師の大規模な雇用斡旋策を採用したイギリスである。本研究では、過去20年間にイギリスを中心とする先進国に看護師を送り出したアジア、アフリカの4カ国（フィリピン、南アフリカ、ガーナ、ジンバブウェ）を取り上げ、各国からの看護師の国際移動の概要（規模、傾向、行き先など）を叙述するとともに、看護師の国際市場の急速な拡大がこれら4カ国の医療保健システム、とりわけ医療人材供給にどのようなインパクトを与えたのかを明らかにした。看護師の国外流出の動向にはイギリスの政策が著しい影響を与えており、1990年代末以降の看護師の国際移動を牽引してきたのは先進国社会の労働需要とそれを満たすための移民政策というプル要因であること、これら4カ国では国際移動によって看護師不足が深刻化したものの、その後の看護学校の増加や一定期間の国内での労働を義務づける政策の導入などにより、2000年代末には看護師の充足率が改善したことなどが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

From late 1990s to mid-2000s, international migration of nurses from developing countries to industrialized countries increased dramatically. One of the major destination countries was the UK, which had initiated a large scale recruitment of foreign nurses in order to expand the workforce at its National Health Service (NHS). This study has described the scale and general trend of nurse migration from four source countries (the Philippines, South Africa, Ghana and Zimbabwe) to the UK as well as other destination countries in the past 20 years, and examined the impact of rapid expansion of international market for nurses on the health system of these four source countries.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
20年度	1,100,000	330,000	1,430,000
21年度	900,000	270,000	1,170,000
22年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：地域間比較研究、国際移動、看護師、南アフリカ、フィリピン、ガーナ

1. 研究開始当初の背景

1990年代以降、グローバル化の進展とともに、国際労働力移動の新しい特質として①専門技術労働者の移動の増加、②国際労働力移動の女性化が指摘されるようになった。この現象を体現するのが看護師の国際移動の急増である。先進国での少子高齢化の進展と、伝統的に看護・介護労働を担ってきた女性にとっての職業選択の幅の拡大により、先進国では看護・介護労働者不足が深刻化した。先進国の医療機関が不足する看護・介護労働者を海外の市場に求めた結果、その主たる供給源となったのがアフリカ諸国やフィリピン、インドなどのアジアの国々であった。

先行研究は、アフリカやアジアからなぜ彼(女)らが海外へ出稼ぎへ出るのかに注目し、プッシュ、プル理論を用いて説明を試みてきた。だが、この現象が、送り出し国における医療サービスの提供や送り出し国の医療保健体系に対してどういった影響を与えつつあり、それに対してどういった対策が講じられなければならないのか、という観点から問題を把握し論じている研究はあまりない。送り出し国であるアフリカ、アジアの国々から見れば、医療労働者の国際移動は深刻な頭脳流出につながり、既存の脆弱な医療サービスのさらなる悪化をもたらしかねない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、専門技術労働者の移動は非熟練労働者の国際移動とは異なる性質をもつという前提に立ち、「アフリカ-南アフリカ-イギリス」および「フィリピン-イギリス」という2つの地域ブロックにおける看護師を中心とする医療従事者の国際移動の特質を抽出するとともに、医療従事者の国際移動が送り出しと受け入れ国の双方にとって、どのような社会的・経済的影響を及ぼすのかを明らかにすることである。さらに、アフリカ、アジア両地域の比較分析を通じて、医療従事者の国外流出とそれに伴う国内における医療人材の不足というグローバルな課題に対して、国際社会にはどのような取り組みが求められているのか、先進国のみならず途上国を含めたグローバルな規模での医療・社会サービスを保障するためにはどのような政策的取り組みが必要であるのかを考察する。

3. 研究の方法

医療従事者の国際移動に関する先行研究のレビューに加えて、本研究では、①世界最大の看護師送り出し国であるフィリピン、②アフリカ大陸のなかでナイジェリアに次いで2番目に国外に流出する看護師が多く、近

隣の南部アフリカ諸国からの看護師受け入れ国でもある南アフリカ、③途上国の中でも最貧国に位置づけられ、国際移動による看護師の人材流出がことさら深刻なガーナとジンバブウェ——の4カ国において現地調査を実施し、政府の医療人材政策について情報収集を行うとともに、看護学校や病院、保健省、看護協会など医療関係機関の関係者に対して重点的なインタビューを実施する。さらに、2000年代前半に上記4カ国からの看護師を大量に受け入れたイギリスの外国人看護師雇用斡旋政策および同看護師受け入れの動向について、英国看護助産師評議会の資料をもとに調査する。

4. 研究成果

3年間の研究を通じて、①フィリピン、②南アフリカ、③ガーナ、④ジンバブウェの4カ国からの1990年代末から2000年代における看護師の国外流出の動向(規模、傾向、行き先)、それに対する政府の政策的対応や社会の反応について非常に対照的な姿が浮かび上がった。また、これら4カ国の看護師の国外流出の動向には、イギリスの外国人看護師雇用斡旋策の変化が著しい影響を与えており、「南」の国々から先進国への国際移動は、両者の間に存在する賃金格差や労働条件・環境の差を中心とするプッシュ要因によって説明されがちであるが、1990年代末以降の看護師の国際移動を牽引してきたのは、先進国社会の労働需要とそれを満たすための移民政策というプル要因であることが明らかになった。送り出し国4カ国についての成果を簡単にまとめると以下の通りとなる。

①フィリピンは、1970年代半ばから中東諸国へ看護師を送り出しており、2000年には世界最大の看護師輸出国となった。2001年には1万4,000人強の看護師が国外で雇用先を見つけている。もともと植民地化などの歴史的関係を持たないイギリスは、1998年頃までは、フィリピン人看護師の目的地ではなかった。しかしながら、1999年からこの状況は一変し、2001年にはサウジアラビアに匹敵する重要な受け入れ国となった。

看護師の国際市場の拡大は、フィリピン国内に甚大なインパクトをもたらした。フィリピンでは海外へ行くために看護師を目指す人びとが増え、その需要を満たすために看護学校が相次いで開校した。だが、2005年頃を境にイギリスによる外国人雇用斡旋政策が縮小したため、2000年代初頭の看護師ブームに乗って看護師を目指した人びとは、海外での就職先を見つけることがきわめて困難になった。フィリピンの保健医療システムは彼女たちを吸収することができないため、フィリピンでは看護師資格を持ちながら医療機関

で働くことのできない大量の看護学校卒業生という新しい問題が生まれることになった。

②南アフリカでは、公立病院を中心に医師、看護師が慢性的に不足しており、それを補うために外国人（主としてキューバ人）医師の受け入れが実施されてきた。1994年の民主化後、イギリスを中心に南アフリカ人看護師の流出が増加したが、2000年代半ば頃から、イギリスの政策の転換とともに、国外へ出る看護師の数は減少している。

南アフリカで特徴的なのは、南アフリカ政府が看護師の国外流出を非常に問題視し、1999年以降、相次いで、国内に医師、看護師を留めるための医療人材政策を打ち出したことである。医療部門での養成課程を修了した人びとには、僻地の医療機関での労働を1年間義務づけるコミュニティ・サービスが導入された。また、僻地手当や不足技能手当、公的部門の看護師の賃金体系の全面的改訂などの給与構造改革も行われている。さらに、南アフリカの医療保健システムに関する調査を通じて、同国では医療人材不足の原因が海外への人材流出に限られないことが明らかになった。

他方で、南部アフリカ諸国から南アフリカへの医師・看護師の流入は、1990年代半ば以降、原則的には認められていないこともわかった。よって、南アフリカを南部アフリカ諸国からの医師・看護師の主要流出先として捉える仮説は再検討しなければならないことが明らかになった。

③ガーナ人看護師の最大の受け入れ先もイギリスであった。ガーナ人看護師のイギリスへの流出は2002～2004年をピークに減少しているが、2000年代初頭に急激に看護師の国外流出が増加したことで、同時期にガーナ国内ではアクラなど都市部の大病院を中心に深刻な看護師不足が起こった。それに対してガーナ政府保健省は看護学校の定員増加と准看護師的な医療スタッフの育成を拡大することによって対応し、2007年には看護学校の入学者が1999年の3.6倍に増加した。

2000年代半ば以降、イギリスの医療人材政策の転換により、外国人看護師のイギリスへの出稼ぎが困難になったことでガーナ人看護師の国外流出はペースダウンした。その結果、現在では看護師不足よりも国内における看護師の待遇を維持しながら、増大する看護学校卒業生のために雇用を創出するという点にガーナの医療人材政策の課題が変化していることが明らかになった。

④ジンバブウェは、1980年の独立後、主として、90年代初頭から国内経済状況が悪化し、2000年以降は政治的経済的混乱が深化したことを背景に、国外に大量のジンバブウェ人

が流出する事態となった。医師や看護師を中心とする医療労働者は人材流出の中心をなし、行き先もイギリス、南アフリカ、ボツワナ、オセアニアなど多岐に渡った。

南アフリカやガーナとジンバブウェが異なる点は、ジンバブウェにおいては、イギリスによる組織的な外国人看護師雇用斡旋政策が終了した後も、国内の経済的混乱が悪化し続けたため、オセアニアや南部アフリカ諸国などへの看護師の流出が続いたことである。2009年2月に連立政権が成立して以降、米ドルを中心とする多通貨制度が導入されたことでハイパーインフレは落ち着き、公務員への給与支払いが再開された。公的な医療サービスは危機的な状況を脱することはできなかった。しかしながら、医療労働者の流出は止まっていなかったばかりか、流出した人材がジンバブウェに戻れるような状況には至っておらず、長期的な政治的安定が医療サービス復興の鍵を握る。

以上のように、1990年代末から2000年代のイギリスによる外国人看護師の雇用の拡大とその後の縮小は、4カ国それぞれに異なったインパクトをもたらした。しかし4カ国に共通しているのは、国際移動によって看護師不足が深刻化したものの、その後の看護学校の増加や一定期間の国内での労働を義務づける政策の導入などにより、2000年代末には看護師の充足率が改善したことである。また、南アフリカやガーナ、ジンバブウェでは、人員の国外流出がもたらす人手不足とオーバーワークに憤慨した看護師自身によってストライキが行われた後、看護師の給料体系が一定程度改善された。これら新たな看護人材を生かせるように国内の医療保健システムを見直していくことが、フィリピン、南アフリカ、ガーナ、ジンバブウェに共通する今後の課題である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

1. 佐藤千鶴子「医療労働者の国際移動と医療人的資源政策—南アフリカの事例」『立命館国際地域研究』29巻、2009年、13-32頁。
2. 佐藤千鶴子「2009年南アフリカ選挙とクワズールー・ナタール州」『アフリカレポート』49号、2009年、40-45頁。
3. 佐藤千鶴子「ガーナ人看護師の国際移動と医療人材供給への影響」『アフリカレポート』50号、2010年、40-45頁。
4. Maria Reinaruth D. Carlos and Chizuko Sato, “The Multi-step Migration of Nurses: The Case of Filipinos in the United Kingdom”, 龍谷大学

国際社会文化研究所紀要, 12 巻、2010 年、5-31 頁。

5. 佐藤千鶴子「国際パートナーシップの下でのマラリア対策の展開—マダガスカルを事例に」『アジア研ワールド・トレンド』185 巻(2011 年 2 月号)、2011 年、12-15 頁。

6. 佐藤千鶴子「南アフリカーアパルトヘイト崩壊と土地問題」『オルタ』2010 年 7/8 月号、2010 年、34-36 頁。

〔学会発表〕(計 6 件)

1. Sato, Chizuko, Migration and Health Human Resource Policy in South Africa, Workshop on Human Security and Migration: Southern Africa and Japan in Comparative Perspective, 2008年9月1-2日, 南アフリカ、プレトリア大学。

2. 佐藤千鶴子「看護師の国際移動と人間の安全保障: フィリピン、南アフリカの事例から」人間の安全保障教育研究コンソーシアム第 2 回大会、2008 年 9 月 20-21 日、大阪大学。

3. Sato, Chizuko, “International Migration of Nurses and the Health Human Resources Policy: The Case of South Africa”, Migration and Human Security Workshop, 2009年2月16日, 東北大学。

4. Sato, Chizuko, “International Migration of Health Professionals and Human Security: The Cases of the Philippines and South Africa”, Workshop on Human Security: Beyond Neo-Liberalism? Critical Human Security in a Globalizing World, 2009年3月5日, 立命館大学。

5. 佐藤千鶴子「看護師の国際移動と医療人的資源政策: 南アフリカの事例」日本アフリカ学会第 46 回学術大会、2009 年 5 月 23 日、東京農業大学。

6. 佐藤千鶴子「土地制度と土地闘争から見る近現代南アフリカ農村社会」社会経済史学会、2010 年 6 月 20 日、関西学院大学。

〔図書〕(計 9 件)

1. 佐藤千鶴子『南アフリカの土地改革』日本経済評論社、2009 年、252 頁。

2. Carlos, Maria Reinart D., Chizuko Sato and Ruben Caragay, eds, *Philippines-Japan Conference on Migration Proceedings, “The Migration of Health Care Workers from the Philippines: Japan as a Potential Host Country for Nurses and Caregivers”*, March 25, 2008 (研究シリーズ8), 龍谷大学アフラシア平和開発研究センター、2009年、104頁。

3. 佐藤千鶴子、マリア・レイナルース・D・カルロス(共著)『フィリピン人介護士受け入れ戦略—アメリカ、シンガポールからの教訓—さあ、日本はどうする? (2007 年 7 月 14 日)』(「フィリピン人看護師の国際移動の現状と政策的枠組み」担当)(研究シリー

ズ 4), 龍谷大学アフラシア平和開発研究センター、2008 年、114 頁。

4. 佐藤千鶴子『越境するケア労働—日本・アジア・アフリカ』(「看護師の国際移動—英国、フィリピン、南アフリカ」担当) 日本経済評論社、2010 年、252 (99-119 担当)。

5. 佐藤千鶴子『南アフリカを知るための 60 章』(「医療問題—頭脳流出と伝統医療」他担当) 明石書店、2010 年、363 頁。

6. 佐藤千鶴子『紛争解決—アフリカの経験と展望』(「南アフリカの対アフリカ平和と外交」担当) ミネルヴァ書房、2010 年、311 (279-304 担当)。

7. Chizuko Sato, *Popular Politics and Resistance Movements in South Africa* (“From Removals to Reform: Land Struggles in Weenen in KwaZulu-Natal, South Africa” 担当), Wits University Press, 2010 年、368 (117-140 担当)。

8. Chizuko Sato, *Land, Memory, Reconstruction and Justice: Perspectives on Land Claims in South Africa* (“Land Restitution and Community Politics: The Case of Roosboom in KwaZulu-Natal” 担当), Ohio University Press, 2010 年、335 (215-231 担当)。

9. 佐藤千鶴子『環境総合年表—日本と世界—』(「南アフリカ共和国」担当) すいれん舎、2010 年、805 (503-505 担当)。

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計◇件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐藤 千鶴子(日本貿易振興機構アジア経済研究所・研究員)

研究者番号: 40425012

(2) 研究分担者() 研究者番号:

(3) 連携研究者() 研究者番号: